

# 新しい橋に名前を付けてください



工事が進む新しい橋

国道313号落合橋西詰の慢性的な渋滞緩和のため、岡山方面へのバイパスとして、平成12年度から市道玉川落合線の改良工事を行っています。これに伴い、平成18年度から整備を進めていた玉川町玉地区と落合町阿部地区を結ぶ新しい橋が、今年7月末に完成します。

市は、新しくできる橋が、皆さんに親しまれるものとなるよう名称を公募します。

応募方法は次のとおりです。

多数の応募をお待ちしています。

**【橋の概要】**

▼構造形式：PC（プレストレスト・コンクリート）3径間連続箱桁橋



- ▼長さ：133.3m
  - ▼幅：9.8〜7.7m
  - ▼事業費：4億8540万円
- 【応募方法】**はがきに、橋の名称と簡単な説明を付記し、郵便番号、住所、氏名（フリガナ）、年齢、性別、職業（または学校名・学年）、電話番号を明記の上、ご応募ください。また、市ホームページ「電子申請システム」からも応募できます。
- 【応募締切】**4月30日（日）（当日消印有効）
- 【賞品】**名付け親賞1人に、感謝状と記念品
- ※決定した名称に複数の応募があつた場合は抽選
- 問い合わせ・応募先 〒711-6185 01（住所不要）建設課 管理係 (TEL) 02323

## ニューピオーネ・トマトスクール 受講生募集

市が生産を振興しているニューピオーネとトマトの栽培技術講習会を開催します。

地域農業の振興と定住促進対策の一環として、市内外を問わず、これから栽培に挑戦しようとする新規栽培者、定年後に農業に取り組みたいという定年帰農者などを対象に、栽培から出荷までの過程を現地で実際に体験して、就農に向けての栽培技術の習得と向上を図ります。

▽対象  
市内に在住、または市内に就農希望の人で、次のいずれかに該当する人

○意欲を持って農業経営に取り組む人（出荷を目標としていること）

- ①新たにニューピオーネ、またはトマトの栽培を始めようとする人
- ②栽培を始めて、おおむね3年目までの人で、基礎技術を習得したい人

○農家への労働支援希望の人で、基礎技術を習得したい人

▽申込期限：4月30日（日）

▽受講料：無料

▽定員および研修内容

### ニューピオーネスクール

定員	30人（先着順）
研修場所	市内ほ場（未定）
研修期間	5月上旬～翌年2月上旬（全9回）※各回半日程度
研修内容	枝管理、房づくり、収穫、土づくり、剪定、優良農家視察 など

### トマトスクール

定員	15人（先着順）
研修場所	市内ほ場（未定）
研修期間	4月下旬～9月下旬（全5回）※各回半日程度
研修内容	定植、葉かき、誘引、収穫、土づくり、優良農家視察 など

■問い合わせ・申し込み 農林課 農政係 (TEL) 02323

## 福西志計子④

## 順正女学校の発展

私立順正女学校は裁縫科と文学科をもって、明治18（1885）年1月、正式に創立された。教員が文学科創設に大いに協力したので、教会との関係は以前にも増して深まったため、町民の中には「伝道

学校」と非難する人もいた。しかし、援助なしには私立の女学校を運営することは困難で、教会員の支援は、かけがえないものであった。福西志計子にとって信仰は活動の原動力であり、キリスト教の精神によって学校を経営したが、学業と信仰は別で、生徒に信仰を強要することはなく、生徒



当時まだ珍しい洋装の福西

のなかで信徒になった人は少なかった。

順正女学校に続いて、明治19年に私立岡山女学校（現清心女子）、私立山陽英和女学校（現山陽女子）が創設されているが、いずれもキリスト教の持つ、女子教育重視・自由の理念に基づいている。

初代の柴原宗助校長は明治19年に辞職して京都に移り、二代目として柳井重宣校長が就任する。彼も最初からの後援者であり、クリスチャンである。大高檀紙の製造は父の代で終わり、松山戸長、17年から県議会議員をしており、畜産業で活躍した実業家で、地域の発展に尽力した信望の厚い人であった。

当時、筒袖、袴に革靴の時代から、洋装時代に移ろうとしていた。県下でも明治17年には岡山中学校が洋服で制服が決められ、19、20年より下道郡、上道郡の男子教師は洋服着用が決められた。こうした時代に対応するため、福西は明治20年単身上京して神田職業学校に学び、洋服の仕立て、

西洋洗濯、毛糸編み物、造花、手芸などの技術を修得し、翌年帰郷し、高梁に初めてミシンをもたらししている。こうして新しい時代に応じた教育内容が導入され、順正女学校の名は高梁の名前とともに、遠い所まで響き渡った。

教育内容の充実につれて生徒が多くなって、新校舎建設の願いが高まっていた。順正女学校の成立時より、厳しい財政を救うため1銭講が始まられ、明治39年まで続いている。また明治23年後半より木曜日会が生まれた。これはキリスト教信者の教師が校舎の新築を願う祈りの会で、その熱意は協力者を動かして、26年10月6日に第一回の新築相談会が開かれた。そこで募金を呼びかける新築趣意書が作られ福西、木村静のほか、板倉信吉、柳井重宣、石川豊次郎、横屋幸完、蓑内鉦一郎、東三省など54人の新築委員が選ばれた。

順正女学校新築趣意書を要約して紹介すると、

「過去7、8年間の我が国の

女学校は欧米の模倣の傾向があり、学は高遠で、芸は浮華に流れ、日本婦人特有の優美、貞淑を忘れていた。そのためこの2、3年来、女学校は衰微しているが、女子教育はないがしろにすべきでなく、学を以つて知を研ぎ、徳を修め、技芸で身を立て、家を保つことを目的とし、良妻賢母を得る教育は国家の急務である。順正女学校はこの主義を採り、明治14年7月より明治27年に至る13年間、全国で幾多女学校が興廃するなか、益々栄え、その教育は社会に適し、卒業生は人の師、良妻となる。今我が校百数十人の生徒を有し、教場狭く、これ以上生徒を入れる余地がない。今回校舎新築を企図している。我が校の主義に賛成し、この計画の賛助を願う」

この呼びかけ以後、福西は以前にも増して寸暇を惜しんで東奔西走し、新築委員をはじめ高梁町民の協力によって、約三千円の寄付金を集めることができた。

（文・児玉 享さん）